

関連文化財群

『豊川市文化財保存活用地域計画』では、市域に点在する様々な文化財を地域の歴史文化の特性と関連付け、一定のまとまりとして捉えた6つの関連文化財群を設定しています。西部中学校区域の関連文化財群は下記のとおりです。

関連文化財群② 数多く築造された多彩な古墳

ストーリー	白鳥台地には三河地域最大級の前方後円墳である<市>船山古墳が築造されたほか、後期の円墳である久保古墳1基がありますが、白鳥遺跡の発掘調査でも複数基の古墳を確認しています。	
関連文化財群の主な構成要素	● <市>船山古墳	● 久保古墳

関連文化財群③ 市域で形成された大江定基伝承

ストーリー	平安時代中期に三河国司であった大江定基 ^{おおえのさだもと} に因む伝承が、西明寺・大社神社にあります。西明寺の縁起によると、定基が力寿の死によって仏門に入り、大宝山の東に草庵を結び、六光寺としたことに始まるとされています。大社神社の社伝では、定基が出雲大社より大神を勧進したとあります。また、江戸時代の『二葉松』には、定基に召し仕えた女性の墓が久保村にあると書かれています。	
関連文化財群の主な構成要素	● 西明寺 ● 大社神社	● 供女塚と大江定基 ● <市>船山古墳

関連文化財群④ 近世東海道を中心とした街道交通

ストーリー	江戸時代、東海道には御油宿が置かれ、隣接する赤坂宿との間の<国>御油のマツ並木は往時の景観をとどめています。また、東海道の脇往還である本坂通（姫街道）が御油で分岐し、豊川稲荷や秋葉山などに続く参詣の道としても多くの人々が利用していました。東海道筋の国府村では市が開かれ、現在でも「国府市」として引き継がれています。	
関連文化財群の主な構成要素	● 芭蕉「紅梅」碑 ● 東海道一里塚跡（国府町） ● 片岡丈右衛門供養塔 ● 秋葉山常夜灯（国府町） ● 大社神社の臨時大祭 ● <登>白井家住宅主屋 ● <市>芭蕉句碑	● 東林寺の墓 ● 追分常夜灯と秋葉三尺坊道標 ● 御油神社の例大祭 ● 森家住宅 ● <市>御油宿交通資料（一括） ● <国>御油のマツ並木

文化財保存活用区域

ストーリー	校区周辺は古代三河国の首府であり、政治・文化・経済などの中心地として栄え、今でも数多くの文化財が伝わっています。八幡町・白鳥町・市田町・野口町は、三河国分寺・国分尼寺跡を始め、重点的に整備を進める地区としており、三河国分尼寺跡史跡公園に次いで、令和7（2025）年度には船山古墳公園が開園します。	
関連文化財群の主な構成要素	● 総社 ● 法雲寺山門 ● <市>木造阿弥陀如来立像	● <市>木造延命地藏菩薩半跏像 ● <市>船山古墳 ● <国>三河国府跡

様々な取組主体

御油松並木愛護会

昭和47（1972）年に結成し、マツ苗の補植、草刈・清掃作業、イベントの開催など様々な活動を行っています。
平成21（2009）年度からは御油小学校と協働して、継続的な補植に取り組み、江戸時代から続く並木景観の保護に努めています。

上宿区

<市>船山古墳（船山古墳公園）の除草や清掃を行いながら、地域住民の集いの場として町内行事等にも活用しています。

⑧<国>三河国府跡



東脇殿調査の様子



大社神社臨時大祭

豊川市文化財保存活用地域計画

【西部中学校区】

令和7年 豊川市

⑩船山古墳公園



<市>船山古墳



御油神社例大祭

自然的・地理的環境

西部中学校区は、豊川市の中央やや西寄りに位置し、音羽川が北から南へ貫流しています。

国府小学校よりも上流側では、東西の山地間に幅の狭い低地が続きますが、下流側は東三河（豊橋）平野へと広がっています。

校区のほぼ中央を国道1号と名鉄名古屋本線が並行し、名鉄国府駅は豊川市の西の玄関口となっています。また、（主）国府馬場線（姫街道）・（主）東三河環状線・国道23号名豊道路も通じ、陸上交通の結節点として機能しています。

歴史的環境

白鳥台地には、縄文時代から中世の遺跡がみられ、なかでも5世紀後葉に築造された船山古墳は三河地域最大級の前方後円墳であり、奈良・平安時代には三河国の国府も置かれるなど、古代から重要な地域でした。近世の東海道には御油宿が設けられ、街道筋の国府村では市が開かれていました。また、東海道の脇往還である本坂通は御油から分岐していました。

明治になると国府村に、宝飯郡の郡役所（後に御油村に移転）や、郡立の宝飯中学校が全国的にみても早い時期に設立されるなど、宝飯郡の中心的地域となりました。

その後、豊川海軍工廠の開廠を契機として、昭和18（1943）年に国府町・豊川町・牛久保町・八幡村が豊川市となり、御油町も戦後に豊川市へ合併しました。

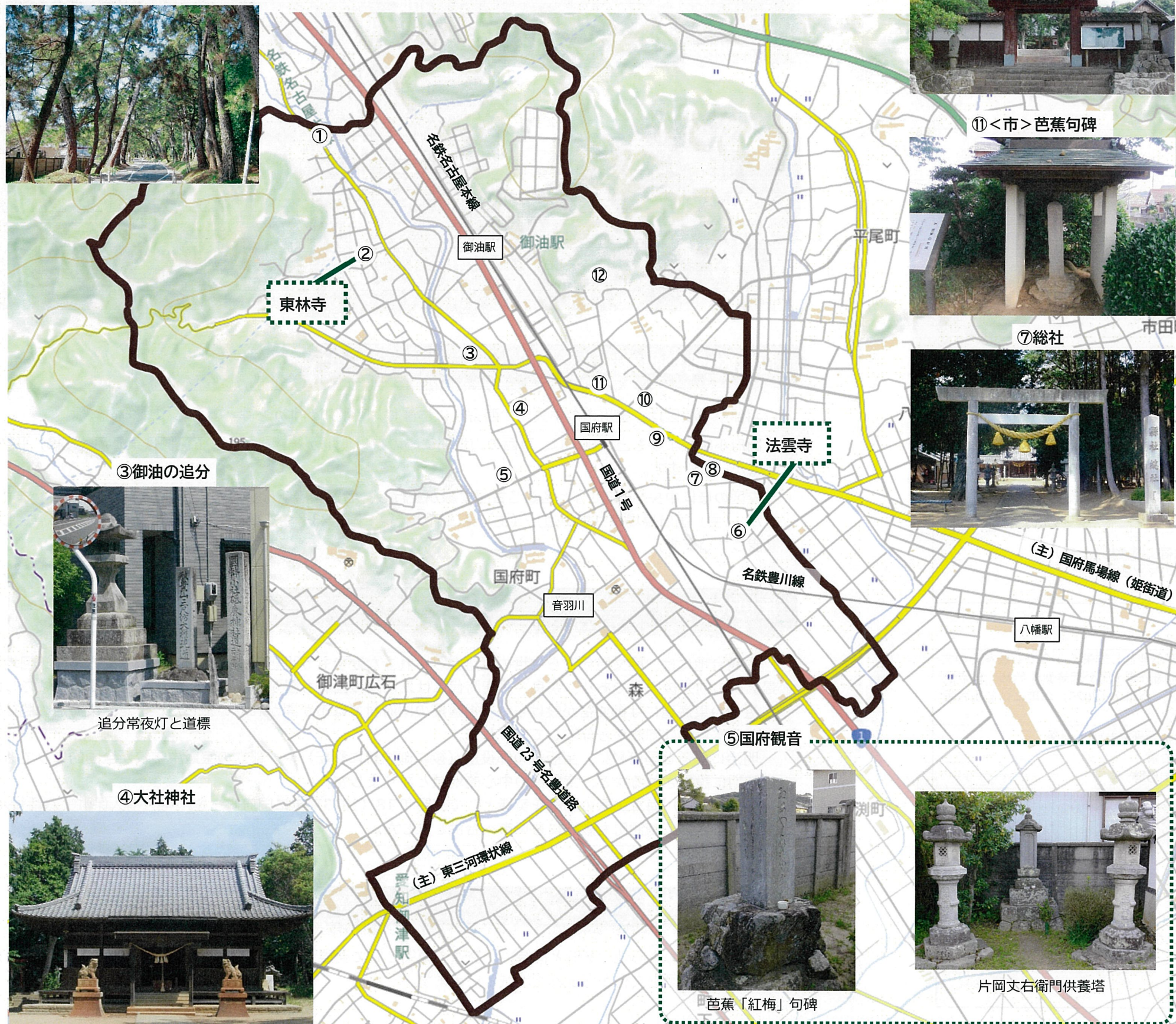
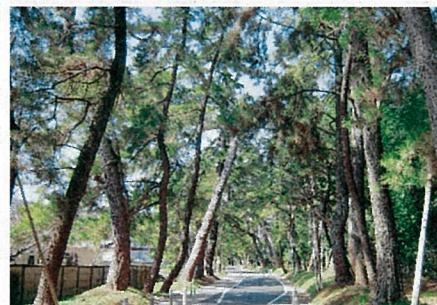
歴史文化の特性

古代の三河の中心地であると同時に、交通の要衝として発展し、近世以降は東海道の繁栄に大きな影響を受けながら、歴史文化が育まれた地域といえます。

文化財の概要

校区の指定文化財等は、18件です。国指定の御油のマツ並木や三河国府跡、社寺が所有する彫刻や絵画などです。豊川市史や既存の文化財関連調査、市民を対象に実施したアンケート調査から把握した未指定文化財（歴史文化資源）は、65件あります。

①<国>御油のマツ並木



東林寺

③御油の追分



追分常夜灯と道標

④大社神社



⑫西明寺



⑪<市>芭蕉句碑



⑦総社



法雲寺

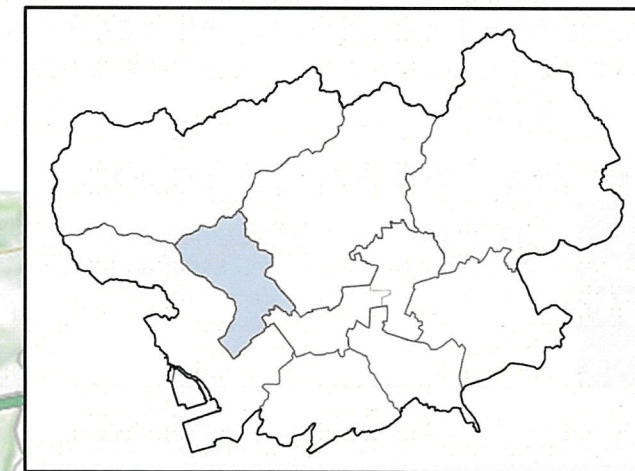
⑤国府観音



芭蕉「紅梅」句碑



片岡丈右衛門供養塔



⑨久保古墳



⑩<市>船山古墳



現地説明会の様子

種別		国指定等	県指定	市指定	合計	未指定文化財等
有形文化財	建造物	1	0	0	1	11
	絵画	0	0	2	2	3
	彫刻	0	0	6	6	2
	工芸品	1	0	2	3	2
	書跡・典籍	0	0	1	1	2
	古文書	0	0	0	0	2
	考古資料	0	0	0	0	3
	歴史資料	0	0	1	1	4
	小計	2	0	12	14	29
無形文化財		0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	6
	無形の民俗文化財	0	0	0	0	4
	小計	0	0	0	0	10
記念物	遺跡	1	0	2	3	10
	名勝地	0	0	0	0	0
	動物・植物・地質鉱物	1	0	0	1	12
	小計	2	0	2	4	22
文化的景観		0	—	—	0	0
伝統的建造物群		0	—	—	0	1
その他 (市独自の設定)	史話と伝承	—	—	—	—	3
	工廠遺産	—	—	—	—	0
合計		4	0	14	18	65